

# 九州弁護士会連合会シンポジウム

## 中国残留帰国者の現在と問題点

### ～尊厳ある共生社会を目指して～

第2次世界大戦前から進められた国の満州移民政策は、多数の日本人が中国に取り残されるといふ悲劇を生み出しました。そして、終戦時の日本陸軍による民間人の置き去り、終戦後の国の引揚事業の懈怠や戦時死亡宣告などにより、数十年の長きにわたり、多数の日本人及びその二世が日本への帰国を阻まれてきました。また、ようやく日本に帰国できた後も、国の支援策が不十分であったため、帰国後にも人間としての「尊厳」を侵害され続けてきました。

そのため、全国各地の中国残留帰国者から「尊厳」の回復を求める訴訟（中国「残留孤児」国家賠償訴訟）が提起され、これを契機に、平成19年に中国残留帰国者一世の支援策が大きく見直され、さらには平成25年に一世の配偶者支援の見直しが行なわれました。

しかしながら、日本への帰国が遅れたこと、また、帰国後の支援策が十分ではなかったことによる人権侵害は、中国帰国者一世にとどまらず、二世・三世にも及んでいます。九州弁護士会連合会では、約2年半にわたりこの問題の調査を実施し、本年6月、内閣・衆参両院・厚生労働省に対して、中国帰国者二世に対する支援策の改善・創設等を求める勧告を行いました。

本シンポジウムでは、未だ解決されていない二世の問題点を中心に、現在の中国残留帰国者支援の問題点を考察し、中国残留帰国者が「尊厳」を持って共に生きられる社会（尊厳ある共生社会）を実現するためには、国は何をすべきなのか、また、私たちには何ができるのか、などをあらためて考えたいと思います。

◆日時：2014年9月13日(土)13:30→16:30(13:00開場)

◆場所：アクロス福岡 4階・国際会議場

### ◆プログラム◆

- 基調報告「九弁連の勧告について」  
吉田 純二（弁護士）
- 基調講演  
「中国残留邦人二世の生活実態と解決課題」  
浅野 慎一（神戸大学大学院教授）
- パネルディスカッション

#### パネリスト

- ◇ 浅野 慎一（神戸大学大学院教授）
- ◇ 樋口 岳大（毎日新聞長崎支局記者）
- ◇ 南 誠（長崎大学テニスクラブ助教）
- ◇ 米倉 洋子（中国「残留孤児」国家賠償訴訟  
弁護団全国連絡会弁護士）

#### コーディネーター

- ◇ 中原 昌孝（弁護士）

# 9 / 1 3 (土)

## 入場無料・参加自由

本シンポジウムでは 日本語から中国語への同時通訳を行います。



主催 九州弁護士会連合会  
【お問合せ】九州弁護士会連合会事務局  
電話 092-741-6416